

2024 年 10 月 25 日
一般社団法人 日本船主協会（海務部）

ReCAAP 関係者研修への協力について

アジア海賊対策地域協力協定（Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia: ReCAAP）の Krishnaswamy Natarajan 事務局長はわが国において、各国関係機関の専門家を招いて、1 週間の予定で研修を行ったが当協会は、民間の当事者として研修に協力した。

当協会は、10 月 24 日（木）、平尾常務理事が海運の現状を紹介した。説明ではアジア地域のうちマラッカシンガポール海峡の武装強盗が増えていること、当海峡のような船舶交通が輻輳するなか、特に深喫水船は、避航余地が少ない海域を航行しており、慎重な操船が要求される一方で、強盗への対策にも注意を向けることが困難であることなどを船長としての経験も踏まえながら紹介し、ReCAAP には活動を期待すると述べた。



平尾常務理事と Natarajan 事務局長

Natarajan 事務局長からは、日本は海上安全や海事保安において常に先頭に立っている国であり、また、海賊対策に関する国際協力は多くの国々が学ぶべき手本となっていると挨拶するとともに、当協会の協力への感謝を表した。

また、海上保安庁の白崎俊介参事官からは ReCAAP や各国の法執行機関と協力しながら、海賊問題に引き続き取り組むとしたうえで、当協会の支援に感謝すると挨拶した。



各国からの研修生らと共に